えんがわ通信

「えんがわ」という名前には、人と人とのつながりが生まれ、「縁」が「輪」のようになって広がってほしいという願いが込められています。

第15号　2013年3月

発行＊一般社団法人パーソナルサポートセンター
就労支援事業部
住所／仙台市青葉区二日町6-6 シャンポール青葉201
電話／022−395−6258
WEB／http://www.personal-support.org/

えんがわキャンドル 3・11のイベント灯す

太白区あすと長町のコミュニティ・ワークサロン「えんがわ」で制作されたキャンドルが、震災から2年目を迎えた3月11日、同区内のイタリアンレストラン「長町遊楽庵　びすた～り」と、佐賀県小城市内で行われたイベントで灯され、参加者が犠牲者を悼むとともに、復興への気持ちをあらたにした。

キャンドルの制作はいずれもイベント主催者から、「被災者が手掛けたキャンドルを使いたい」との要望を受けて実現。えんがわで昨年5月からキャンドルの制作に取り組む女性2人が、4日がかりで計118個を完成させた。

そのうち、小城市内のイベント用キャンドルは、3時間以上、火がともし続けられるよう主催者側から要望があり、作り手の女性2人が、燃焼時間を計ったり、屋外でも火が消えないよう工夫を凝らしたりしながら、何度も試作品を作って完成させた。

日本画の顔料5色を調合させながら、グラデーションを付け、白や青、ピンクなどの淡い色に仕上げたという。小城市内で行われたイベントの担当者は「えんがわキャンドルを佐賀で灯すことができてよかった」と話す。

「びすた～り」で行われたイベント「3・11つなげよう希望の光　世界一大きな絵2016in宮城キックオフ」では、制作をした女性2人もイベントに出席し、キャンドルを囲んで、参加者と交流を深めた。

「えんがわ」の担当者は「キャンドル制作を始めて1年の節目に3・11のイベントで使ってもらえたことは意義深い。作り手さんもこだわりをもって取り組んでいる。今後も工夫をして制作していきたい」と話す。

注文に応じて制作しているキャンドルは通常、6種類。そのうち今回のイベントでは5センチ四方のキューブ型（400円）、4・5センチ四方のお菓子のカタに流し込んだもの（300円）が販売された。

えんがわキャンドルを一つ一つ丁寧に梱包する女性

被災者支援で感謝状
厚生労働大臣が贈呈

厚生労働省は3月11日、東日本大震災で被災者の支援活動などを行った企業やNPO法人など1458団体に、「厚生労働大臣感謝状」を贈呈すると発表し、一般社団法人パーソナルサポートセンター（青葉区・略称PSC）がその一つに選ばれた。

同省の発表によると、感謝状の贈呈は、大震災で被災者の支援活動等を行った団体などに対して、その功労に報いるため、今回は同省の医政局、健康局、医薬食品局、労働基準局、社会・援護局の事業に関する貢献をした団体などに贈呈されるという。

PSCは2011年3月3日に設立。震災直後から、炊き出しや物資輸送などの支援を始め、翌月下旬には、仮設住宅入居者の支援に乗り出した。同年6月には、仙台市の委託で被災者見守り事業を開始。12年6月に、就労支援相談センター「わっくわあく」を開設するなどして、被災者の就労に関するさまざまな支援を手掛けている。

PSCの立岡学理事は、感謝状の贈呈について「スタッフの励みになった。今後も一丸となって、被災された方々が生活再建をするための支援を続けていきたい」と話している。

来年度も継続
ハローワーク出張相談

ハローワーク仙台（宮城野区）はPSC就労支援相談センター「わっくわあく」（青葉区）で実施している出張相談を4月以降も継続する方針を固めた。就労支援ナビゲーターが、職業相談や求人情報の提供を行う。4月は19日午後に実施する。

出張相談は昨年10月に開始。3月11日現在で、41人が相談を受け、20代～60代の男女13人が飲食・サービスや清掃などの仕事に就いた。

相談時間は午後1時半～午後4時半。4月19日以降は、第1、第3金曜に行う。事前に予約が必要。定員は各5人。連絡先は「わっくわあく」022（395）6323。

就労決定者 75人「わっくわあく」

PSC就労支援相談センター「わっくわあく」が本年度実施した就労支援相談で、75人が就労先を決めていたことが、PSC就労支援事業部のまとめで分かった。

PSCによると2月末現在で、196人が「わっくわあく」を訪問し、仕事などについて相談。75人が就労先を決めた。年代別では、30代が最も多く18人。40代、50代がそれぞれ17人だった。

業態別では「飲食・サービス業」が22人と最も多く、次いで「製造業」（11人）や「医療・福祉系」（11人）への就職となっている。

PCS就労支援事業部の担当者は「30、40代の就労決定が増えてきている。今後も、さまざまな方々に就労する機会を提供できるよう、取り組んでいきたい」と話している。

明日へつなぐ

思いをのせて
記事で紹介し
読んで元気が出る
メディアにしていきたい。

NPO法人HUG
代表理事
本間　勇輝　さん

初めて被災地に入ったのは、2011年秋のことでした。いわゆるインフラだけでなく、まちをどうするかについて議論が始まったころです。

当時、フリーペーパーなど、地域ごとの情報はありましたが、それに横串を通すような媒体がありませんでした。現地を歩いて、みんなが同じ課題に向き合っているのに、隣の町の事例はわからない状況を知りました。

そうした中で、いい事例だけを集め紙媒体で見せることができないかと考え、「東北復興新聞」を2012年1月16日に創刊しました。

いまは月1回、4000部を発行しています。半分が東北に向けて配布していて、自治体や支援企業、NPO法人、地元の事業所などに配っています。

震災から3年目。復興は、長期戦に入ってきました。活動している団体、企業からは「いつまでやるんだろう」「どこに向かっているんだろう」という声をよく聞きます。いわゆる「踊り場」なのかもしれません。

今後は、仮設住宅から、恒久住宅に移る中で、行政や支援団体などが復興や震災という文脈ではない中で、まちづくりを考える時期に入ってくるのかなと思っています。

そうした中で、規模は小さいけれど、新たな取り組みをしているところもあります。被災地の水産加工業者の中には、震災前の水準に売り上げを戻している企業もあります。農業で活躍しているところもあります。

取材を通じて、売り上げを回復させた企業に秘策があるわけではなく、愚直にやるべきことを仕組みとして回していることを学びました。

そういうところにしっかりと光を当て、多くの方々に見てもらうことで、被災地を元気にするお手伝いをしていきたいと考えています。

わたしたちが提供できる価値は、コアないい事例です。いわゆるジャーナリズムではなく応援メディアです。思いをのせて記事で紹介し、読んで元気を出してもらえるメディアにしていきたいと思っています。

【東北復興新聞】
http://www.rise-tohoku.jp/

えんがわの輪③

森　由紀恵さん（51）
＝太白区袋原

「多くの活動 楽しみたい」

震災前は岩沼市内で、花の生産・販売をしていました。津波で自宅やハウスが流され、畑も被害を受けましたが、家族全員が無事だったことが、何よりだと思っています。

さげ雛づくりがきっかけで昨年2月、「えんがわ」のイベントに参加するようになりました。これまで、封入作業やころころにこまる、リボンレイづくりに関わってきました。

手を動かすのは楽しいし、前向きな気持ちになります。「この色いいね」などと話をしながら、子どもと一緒に自宅で、作業をするのも楽しいです。夫との会話も増えてきました。

わたしにとって家族が一番大事。子どもや夫と過ごす時間を大切にしながら、これからも、手仕事を続けていきたいと思っています。

「わっくわあく」の所在地

●アクセス
市営地下鉄 勾当台公園駅 徒歩3分
北四番丁駅 徒歩5分
市バス・宮交バス 県庁・市役所・青葉区役所前 徒歩2分

TOPICS（4月）

就業や進路に関する個別相談

専門の相談員による、就職や進路・キャリア等に関する個別相談を開催します。（就職のあっせんではありません）

■日時：４月２３日（火）１０：００～１８：００（お一人５０分）
■場所：ＡＥＲ６階　情報・産業プラザ
■対象：①学生・求職中の方（年齢不問）、②在職者（３０代まで）
■定員：２０人
■申込締切：４月１６日（火）必着

◎**申込方法**：郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・求職中／在職中のいずれかを記入し、郵便・ＦＡＸ・Ｅメールでお申込みください。ご希望の相談時間がある場合にはご明記ください。締切後に応募者全員に決定通知書をお送りします。

◎**お申込み・お問い合わせ：仙台市産業振興事業団**
〒９８０－６１０７ 仙台市青葉区中央１－３－１ ＡＥＲ７階
ＴＥＬ：０２２－７２４－１２１２、ＦＡＸ：０２２－７１５－８２０５
Ｅメール：koyoushien@siip.city.sendai.jp

のびすく仙台

◎利用できる人　主に乳幼児とその家族
◎住所　仙台市青葉区中央２丁目１０番２４号
（仙台市ガス局ショールーム３階）
◎お申込み・お問い合わせ
ＴＥＬ：０２２－７２６－６１８１、ＦＡＸ：０２２－２１４－５０７１

やさしいフラ　申込不要

ステキな音楽に合わせてフラに挑戦！
お子さんも一緒にどうぞ。
■日時：４月５日（金）１０：３０～１１：３０
■場所：のびすく仙台 こどもひろば
■講師：鈴木 美香さん

母乳なんでも相談　受付中

母乳に関することなら、どんな相談にも応じます。
■日時：４月１０日（水）１４：３０～１６：３０
■場所：のびすく仙台 情報コーナー
■講師：ＮＰＯ法人母乳育児をすすめる会
■定員：８人（１人１５分程度）

プレパパママ講座　3/28～申込開始

沐浴体験や、妊婦体験、交流会など、みんなで一緒に行います。
■日時：４月２１日（日）１０：００～１１：３０
■場所：のびすく仙台 こどもひろば
■講師：柴田 洋美さん（助産師）
■対象：初めてパパママになる方
■定員：１０組

セカンドハンド仙台

茶話会参加者　募集

地域のみなさんと交流しませんか？
コミュニティーショップ「セカンドハンド仙台」は、茶話会に参加する人を募集しています。
当日はみんなで小物も作ります。ぜひご参加ください。
■日時：４月１５日（月）１０：００～１２：００
■場所：セカンドハンド仙台（仙台市若林区河原町）
◎**お申込み・お問い合わせ**
ＴＥＬ：０２２－７２１－１１９５［セカンドハンド仙台］

コミュニティ・ワークサロン「えんがわ」

封入手伝い　募集

「復興定期便」（仙台市からのお知らせ）の封入作業の参加者を募集しています。
■日時：４月１７日（水）・１８日（木）・１９日（金）
９：００～１２：００／１３：００～１６：００
■対象：東日本大震災発生時に【仙台市以外の被災沿岸部の市町村】に住んでいた被災者
■謝礼：２，０００円相当の商品券（３時間ごと）
■申込締切：４月８日（月）

料理教室

「仙台友の会」が、栄養改善を目的に料理教室を開きます。安くて栄養バランスのとれた料理で、お食事や会話を楽しみながら、つながりをつくり、食生活の改善について考えてみませんか？
■日時：４月２４日（水）１０：００～１３：００
■定員：１５人
■参加費：２００円（実費）
■持ち物：エプロン
◎**お申込み・お問い合わせ**
ＴＥＬ：０２２－３９５－６２５８［ＰＳＣ就労支援事業部］

あすと長町の女性 テレワークで活躍

「テレワークを通じて、頑張ったという実感を持つことができるようになった」と笑顔で話す目黒さん（右）

太白区あすと長町の仮設住宅に入居する目黒衣美さん（32）がテレワーク＝❷＝で活躍している。ライターが書いた原稿の要約文を作成する仕事で、家にいながら月５万円ほど収入を得ている。依頼先の想定を上回る収入に、目黒さんは「やればやった分のお給料がもらえるのは、うれしい」と手ごたえを感じている。

目黒さんは昨年10月、「えんがわ」で開かれたパソコンスクールを運営する佐々通オンサイト主催の講習会に参加。パソコンの使い方など、テレワークのスキルを身に付けた後に、仕事を始めるためのテストを受けて見事に合格。同年12月中旬から、自宅で仕事をするようになった。

テレワークをはじめて３カ月。いまは、６００字以上の原稿を１００字程度に要約する仕事を一週間で２５０～２７０件こなす。週末に仕事の依頼があり、月曜日の朝、子どもを小学校に送り出してから着手。週の中ごろまで日中は仕事に没頭し、金曜日の昼までには、ほぼ仕上げるという。

いずれは震災前に住んでいた南相馬市に戻り、働くことを考えているという目黒さん。「子育て中ということもあり、働きたくても、なかなか仕事が見つかりませんでした。あきらめかけていた時に、テレワークの仕事を紹介してもらい、本当に助かっています」と話している。

❷テレワークとは
インターネットなどの情報技術を活用し、職場と自宅などを通信回線で結んで遠隔勤務する労働形態。時間や場所の制約を受けずに、柔軟に働くことができる。

えんがわ通信 求人コーナー

このコーナーでは、就労支援相談センター「わっくわあく」（ＰＳＣ就労支援事業部）と提携する特定非営利活動法人「ワンファミリー仙台」が、みなさまにさまざまな求人情報をお届けします。
※特定非営利活動法人「ワンファミリー仙台」無料職業紹介事業（許可番号０４－ム－３０００１０）

株式会社 コージーライフ

募集職種／内装仕上人
仕事内容／マンション・アパート・一般戸建住宅のクロス貼り、床ＣＦ貼り、襖、障子貼り技術の習得を目指す（一級技能士が指導）
雇用形態／正社員
給　　与／月給140,000~250,000円（月平均労働日数 22.0日）
勤 務 地／仙台市内の現場
勤務時間／9:00 ～ 18:00
休日・休暇／日・祝 他　週休二日制　その他（会社カレンダーによる）
加入保険／雇用・労災・健康・厚生
免許・資格／普通自動車運転免許

社会福祉法人 やまとみらい福祉会

募集職種／介護職員
仕事内容／介護業務や高齢者への生活援助、身体介護、その他ユニットケアに関して付随する業務
雇用形態／正社員
給　　与／137,600~165,100円（基本給）
定期職務手当 5,000 円
夜勤手当 4,000 円 / 回
勤 務 地／仙台市泉区
勤務時間／1）7：00 ～ 16：00
2）9：00 ～ 18：00
3）12：30 ～ 21：30
4）21：15 ～ 7：15
シフト制（夜勤は月4~5回程度）
休日・休暇／週休二日制（シフト制）
加入保険／雇用・労災・健康・厚生、退職金制度あり（勤続３年以上）
免許・資格／ホームヘルパー２級以上あれば尚可
介護福祉士あれば尚可

株式会社 大盛警備保障 仙台営業所

募集職種／交通誘導員
仕事内容／契約先工事現場での交通誘導、契約先店舗駐車場・イベント等会場での車両誘導
雇用形態／契約社員
給　　与／日給 7,000 ～ 9,000 円
資格手当（交通誘導１級・２級）月額 5,000 円
勤 務 地／仙台市及び近郊市町村
勤務時間／8:00 ～ 17:00
但し、現場により変更になる場合あり
休日・休暇／週休２日（変形労働時間制）※応相談
加入保険／雇用・労災・健康・厚生
免許・資格／不問、普通自動車運転免許あれば尚可

※求人は３月８日現在のものです。求人募集が終了している場合がございますので、あらかじめご了承ください。

その他にも求人多数有り。求人に関する問い合わせ、連絡先は
022-395-6364（ワンファミリー仙台 求人担当）

就職のお悩み相談は、就労支援相談センター「わっくわあく」へ。電話 022-395-6323

「えんがわ」のつぶやき　はたらくきっかけ、ともに見つけたい

「あの日」から２年が過ぎた。この時期になると、今後の支援活動のあり方について、考えてしまう。

「来年からはどうなるの」「ずっと活動に参加していたい」

最近、そんな声をよく耳にするようになった。わたしたちに対して、継続的な支援活動を望む人たちの声だ。

支援活動の中で、「生きがいづくり」や「コミュニティ形成」「雇用創出」といった言葉を頻繁に口にしてきた。

抽象的な言葉ではあるが、その必要性は、被災者の方々とかかわる中で、日増しに感じるようになった。

この言葉を発する時、決まって心に決めていることがある。

それは、途中で投げ出すことなく、「継続的な支援」をすることである。継続的という言葉は、目的が達成されるまで「半永続的」であることを意味する。

震災によって、単身の高齢者の暮らしや、コミュニティ再生の方策、雇用のミスマッチなど数々の課題や問題が浮き彫りになった。

同時に、この震災を機に、わたしたちが気づかされたことも多くある。

被災地は今後、多くの地域で直面するであろう問題や課題が集約している地域ともいえるだろう。

だからこそ、いま起きている問題、そしてこれから起きるであろうことに、真摯（しんし）に向き合い、継続的な支援を続けていかなければならない、と感じている。

２年前と比べて何が変わったのか、いまはまだ、明確には分からない。ただ、多くの人が前に進もうという意識が芽生え始めたことは明らかだ。

ゆっくりで良い。前へ進もう。今よりも、もっと、前に進むために、私たちができる最大限の努力をしたい。長い目で感じ取ってほしい。（Ｏ）